

フードバンクに協力を



可児市内のバロー、コープぎふの店舗に設置された
フードドライブポスト。同市役所

可児市やバロー4店舗にポスト

可児市、バローホールデ
ィングス(HD)、生活協
福祉協議会が連携し、家庭

で使い切れない食料品を持
ち寄り、必要とする人に届
ける「フードバンクポスト」
を7日、市内のバロー、コ
ープぎふの4カ所の店舗に
設置した。寄せられた食品
は、市内で子ども食堂を運
営する団体などに提供され
るという。

同HDでは、県内外です
でに200カ所ほどのポス
トを設置しており、同市
と9月に締結した地方創
生の実現に関する包括連携
協定に基づく取り組み。バ
ロー広見店、西可児店、下
恵土店に設置された。コー
プぎふは、可児店で202
2年からフードバンクポス
トの活動をしているが、日
時を決めての開催で、今回
の連携を受けてポストが常
設で設置されることになっ
た。

対象となる食品は、常温

保存ができる未開封で1カ
月以上賞味期限があるも
の。子ども食堂を運営する
団体、生活困窮者ら食品を
必要とする人に渡される。
市役所で行われた式典に
は、富田成輝市長、バロー

HDサステナビリティ推進
室の秋元武室長、コープぎ
ふの児玉幸夫専務理事、市
社会福祉協議会の奥村啓明
会長、市内で子ども食堂を
運営する団体から地域たす
けあいの会の木村順子代表

が出席して意見交換をし
た。木村代表は「提供して
もらった食品は子ども食堂
や、物価高で生活が困窮し
ている人への支援にも活用
したい」と感謝していた。
(小森孝美)